

百

山形県発明協会
創立百周年記念誌

100th Anniversary

一般社団法人
山形県発明協会

目次

1	ご挨拶 「創立100周年を迎えて」	1
	一般社団法人山形県発明協会 会長 木村 一義	
2	ご祝辞 (創立100周年記念式典 ご来賓)	2
	山形県知事 吉村美栄子 公益社団法人発明協会 会長 内山田竹志 特許庁審査業務部長 師田 晃彦 東北経済産業局長 佐竹 佳典	
3	100周年記念事業	6
	(1) 式 典 (2) 表 彰 (3) 祝 賀 会 (4) 講 演 (5) 社会貢献事業 (6) 新 聞 広 告	
4	一般社団法人山形県発明協会 決意表明	15
	実行①「子ども達の潜在力・可能性を引き出す」 ～少年少女発明クラブの創設促進と活動充実～ 実行②「動機付け、励まし、褒める」 ～発明くふう展、未来の科学の夢絵画展の開催と表彰～	
5	子ども達の創造性開発育成に向けた抱負 (各少年少女発明クラブ会長) ...	24
	<資料編>	26
	① (公社) 発明協会と山形県支部・(一社) 山形県発明協会の歴史・あゆみ ② (一社) 山形県発明協会事業概要 ③ 歴代支部長・会長、山形県発明協会役員名簿、会員名簿 ④ 山形の発明王 齋藤外市氏、久村清太氏、中村恒也氏	

創立100周年を迎えて

一般社団法人山形県発明協会
会長 木村 一 義



本協会は、大正14年7月25日、北海道、東北6県その他の地域における優良発明表彰式が山形市で開催され、それを契機に山形県当局と先輩諸兄が協力し、社団法人帝国発明協会山形県支部として発足いたしました。100年前に先輩諸兄が、技術革新と産業振興を掲げ、強い熱意や思いと挑戦心から、支部としては全国でも5番目という早い時期にこの山形で創設されたことに胸を熱くしたところであり、その目的達成に向け私たちも意を同じくしてこれまで歩んでまいりました。

これまでの長きにわたり本県の産業振興に貢献してこられましたのも、先輩諸兄の皆様のご協力、ご支援の賜であり、心から感謝申し上げます。

産業振興の基本は人づくりです。真面目に、誠実にものづくりに取り組むことが一番大切であります。私は、次代を担う子ども達の育成に当たっておられる少年少女発明クラブの指導者の方々にも「われづくり、人づくり、ものづくり」を繰り返しお願いしております。

山形県はこれで終わってはいけない。まずは人づくりです。

世のため、人のために役立つ人財となるには、志をできる限り早く立てることが大切であります。

本県の少年少女発明クラブから、将来、発明・イノベーションで世界に貢献する人財を輩出することを決意し、それに向かって仲間の皆さんとともに挑戦してまいり所存でございます。

関係各位におかれましては、今後とも一層のご理解、ご協力のほどをお願い申し上げます。

創立100周年記念式典

ご祝辞

山形県知事

吉村 美栄子



一般社団法人山形県発明協会が創立100周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。山形県発明協会は、大正14年にその前身となる社団法人帝国発明協会山形県支部が創立して以来、発明考案の奨励や知的財産の普及啓発等を通して、本県の科学技術の振興を図り、さらには地域経済の発展に貢献してこられました。

とりわけ、子どもたちの発明やものづくりへの関心を深め、創造力を育む取組みに御尽力され、例年、全国の発明くふう展や未来の科学の夢絵画展において、本県の子どもたちが大変優秀な成績を収めているところです。また、昨年11月には、県内で10番目の発明クラブとなる「かむろもがみ少年少女発明クラブ」が新たに発足し、クラブ数は全国第3位となっております。各クラブが活発な活動を展開しており、山形の子どもたちの創意工夫や学びの機運が着実に高まってきております。

また、企業等が創造したアイデア、ノウハウに係る知的財産の取得・利活用や、企業単独では解決が難しい知的財産の悩みや課題について、企業に寄り添い、きめ細やかな相談支援を行うことで、新たな事業展開や経営力向上を力強く支援いただいております。

これもひとえに、木村会長をはじめとした役員の皆様、会員の皆様のたゆまぬ努力の賜物であり、これまで積み重ねてこられた御功績に対し、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、現在、本県産業は、少子高齢化に伴う人口減少の加速や様々な産業分野における人手不足の深刻化、不安定な国際情勢に伴う物価・エネルギー価格の高止まりなど、多くの課題に直面しております。本県産業が持続的に発展していくためには、こうした厳しい状況をチャンスと捉え、進展するデジタル技術の活用や脱炭素社会実現に向けた取組みなど、時代の変化に柔軟に対応しながら、イノベーションの力で新たな価値を生み出すことが必要と考えております。

不確実な時代と言われる現代においても、本県産業の次代を担う子どもたちの育成と企業の皆様の新たな価値の創出を支援する山形県発明協会の役割は、今後一層その重要性が増すものと認識しております。

県としましては、本県の科学技術と産業の発展、ひいてはイノベーションによりもたらされる、真の豊かさと幸せを実感できる県づくりに力を注いでまいりますので、皆様方からの一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、輝かしい100年の歴史を支えてこられました山形県発明協会関係者の皆様に改めて敬意を表しますとともに、今後ますますの御発展と御参会の皆様のお多幸、御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立100周年記念式典

ご祝辞

公益社団法人発明協会
会長 内山田 竹志

山形県発明協会が創立100周年の輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴協会は、大正14年に東北初の地域拠点である「帝国発明協会山形県支部」として創設され、発明の奨励、青少年の創造性育成、知的財産制度の普及啓発など、多岐にわたる活動を展開されてきました。そのご尽力は、科学技術の振興はもとより、地域産業の発展にも大きく貢献されています。

平成23年には、公益法人改革により、独立した法人として新たな歩みを始められましたが、以後も当協会と連携を保ちながら、公益に資する取り組みを一貫して継続されていることに、深く敬意を表します。

貴協会の創立日である大正14年7月25日は、山形市で第5回地方発明表彰が举行された日でもあります。多くの県内発明家が受賞され、当時から創意工夫の気風がこの地に培われていたことがうかがえます。

その後も、全国発明表彰を始め、大臣表彰や国家の栄典を受けた方々を多数輩出され、地域から生まれた才能が国の発展に寄与していることに改めて感銘を受けるものであります。

また、「全日本学生児童発明くふう展」や「未来の科学の夢絵画展」では、県内の児童生徒が栄えある賞を多数受賞し、「世界青少年発明工夫展」にも県内からこれまで6名が日本代表として選出されるなど、次代を担う人材の育成にも尽力されています。

さらに、創造性を育む場である「少年少女発明クラブ」は、この3年間にわたり毎年新設され、現在では全国第3位となる計10か所を数えるまでに拡充されました。このような基盤整備が積極的に行われていることは、全国的にも高く評価されるものです。

昨今、生成AIの飛躍的進展に象徴されるように、ものづくりの環境は大きく変貌しつつあります。このような時代にあっても、貴協会が変わらぬ使命感のもと、関係諸事業のさらなる推進に尽力されますことを願ってやみません。

最後に、これまで協会を支えてこられた木村会長をはじめ、歴代会長各位、山形県および関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。山形県発明協会のさらなる飛躍を祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

創立100周年記念式典

ご祝辞

特許庁審査業務部

部長 師田 晃彦



本日、山形県発明協会が創立100周年を迎え、記念式典が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。このような式典にお招きいただき、誠に光栄に存じます。

山形県発明協会の皆様におかれましては、山形県発明くふう展をはじめとする発明奨励事業等を通して、長年にわたり山形県での知的財産権制度の発展に御尽力いただき、感謝申し上げます。

山形は、米沢牛や尾花沢そば等美味しい食事で有名なことに加え、置賜紬や米沢織をはじめ、江戸時代からものづくりで栄えた土地柄であると聞いております。これらは全て地域団体商標としても登録されており、知財活用と地域発展の両立に取り組んでおられることに敬意を表します。

明治維新後の山形県のものづくりを支えた発明家として、ちょうど山形県発明協会が創立された100年前に亡くなられた、斎藤外市さんのお名前がありました。絹の斎藤外市、綿の豊田佐吉とも呼ばれ、彼の発明した絹織物機械が山形、ひいては日本の絹織物産業を支えたと聞いております。このように、日本経済を牽引した素晴らしいイノベーターが山形から生まれていることも、この地域の誇りであると思います。

さて現在、政府としては石破内閣総理大臣のリーダーシップのもと、「地方創生2.0」を推進しており、その鍵となるのが地方でのイノベーション創出であります。

特許庁としても、地方の企業の皆様が発明の創出・活用を通じて稼ぐ力を高めていただくよう、各種施策を実施しております。例えば、昨年6月のINPIT法改正において、INPITの業務に中小企業に対する助言と助成業務を追加し相談窓口機能を更に強化しました。山形県発明協会の皆様には知財総合支援窓口の運営をしていただいておりますが、今後ともお力添えいただけますと幸いです。また、特許庁、日本弁理士会、INPIT、日本商工会議所が連携した「知財経営支援ネットワーク」に、昨年12月に中小企業庁も加わり、中小企業の相談窓口であるよろず支援拠点と知財総合支援窓口の一層の連携を図るなど、より効率的な支援を行えるようになりました。

更に、特許庁は本年10月に大阪・関西万博に出展し、知財のおもしろさを知っていただけるような展示イベントを企画しております。未来の科学の夢絵画展で特許庁長官賞を取られたのは山形県の小学生の方ですが、こういった入賞作品も展示予定ですので、機会があれば是非万博会場にも足をお運びください。

特許庁は今後も利用者である皆様の声に応える形で、知的財産制度を充実させ、地方ひいては日本全体のイノベーションが更に進むよう、しっかり取り組んでまいります。

改めまして、山形県発明協会が創立100周年を迎えられたことは、会員の皆様をはじめ多くの関係者の御尽力の賜物です。山形県発明協会がこれからも山形県内での知財制度の普及や発明の奨励に努められ、第2、第3の斎藤外市の輩出に向けて御活躍されますことを祈念し、また本日お集まりの皆様の益々の御健勝をお祈りいたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。

創立100周年記念式典

ご祝辞

東北経済産業局
局長 佐竹 佳典

この度、山形県発明協会が創立100周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、大正14年に前身の社団法人発明協会山形県支部として発足されて以来、地域の知的財産への相談窓口としての活動はもちろん、全国発明表彰等への推薦を通じて、地域の優れた発明に光を当ててこられました。また、今年で60回を迎える予定の山形県発明くふう展の開催等を通じて、次世代の育成にも力を入れてこられました。

これら長きにわたる貴協会の活動と、その活動に貢献されてきた、多くの関係者の皆様に深く敬意を表します。

ご承知のとおり、足下の米国関税措置が、日本及び世界経済、ひいては国際秩序に大きな変化をもたらす可能性があり、世界の不確実性は高まっております。地域の中堅・中小企業の経営者の皆様がこれまで以上に国際政治、経済の動向を注視して経営していく時代に突入していると思います。

さて、産業構造審議会経済産業政策新機軸部会の中間整理について少しご紹介いたします。この中間整理では、2040年の日本の産業構造の将来見通しと政策の方向性（シナリオ）を示しております。その中の大きな柱の一つは、地方経済のポテンシャルを発揮させることで、日本経済の成長の起爆剤にしていくというものです。人口減少下でも「投資と賃上げが牽引する成長型経済」に転換できれば、国内経済が縮小することなく、日本経済は成長可能です。

地方経済のポテンシャルを発揮させるには、地方経済の成長の担い手となる中堅・中小企業の成長力の抜本的な強化が必要になります。その中で「知財で稼ぐ」に対する期待が高まっております。スタートアップや地域企業等にとって、技術力の高さや他社との差別化要素等を訴求することが可能となる産業財産権は稼ぐ力の向上に向けた有効なツールです。非活用企業に比べて、活用企業は営業利益率が約25%程度高く、1人あたりの給与が1.5倍に上がるとも言われております。日本商工会議所や地方自治体から知財の利活用推進に向けた声が高まっております。

他方、知財利活用が地方では進んでいないのが現状です。地域の中小企業等が知財を活用して、地方創生の起爆剤とする余地は相対的に大きいと思っております。

昨年度の東北地方発明表彰では、東北経済産業局長賞に山形県の株式会社鈴木製作所様が受賞されました。豊富な知的財産を有し、世界に先駆けた技術によって新しいものづくりや価値を生み出すとともに、知財により自社市場を保護することで、産業及び地域経済の発展に貢献されています。

東北経済産業局としても、このような知的財産を活用してご活躍されている企業の皆様に貢献すべく、補助金や施策等の取組を通じて、関係機関との連携も図りながら、各地で「知財で稼ぐ」企業を創出することを目指していきます。

また、これらの取組が実効的であるためには、東北地域の自治体、発明協会、日本弁理士会、商工会議所等、支援機関や経済団体との連携が不可欠です。

昨年度は、当局の中小企業知的財産支援事業をご活用いただき、山形県発明協会が地域支援機関と連携してデザイン経営のワークショップ等を開催し、県内28事業者のキャッチコピーをまとめた「やまがた経営資源マップ」を作成する等、地域課題解決に向けて企業間の連携を促進し、県内経済の活性化につなげる取組を実施されました。

引き続き、皆様には、地域企業への知的財産権制度の普及・啓発にご尽力いただき、地域経済の発展に寄与されることを期待いたします。

さて、ここで1点、この場をお借りして、4月に開幕した大阪・関西万博について宣伝をさせていただきます。万博は、最先端の技術を体感し、世界にネットワークを広げる絶好のチャンスです。特許庁も「知財のチカラ」を発信する展示イベントを開催いたします。20年ぶりの万博、是非、足をお運びいただければ幸いです。

結びに、山形県発明協会の益々のご発展と、本日ご参会の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

一般社団法人山形県発明協会 100周年記念事業

(1) 式典

- 日 時：令和7年5月27日(火) 16:00~17:00
- 場 所：山形グランドホテル 2階「サンリヴァ」
- 参加者：会員、来賓等 108名
- 次 第
 1. 開式の辞 (鈴木隆一副会長)
 2. 式 辞 (木村一義会長)
 3. 来賓紹介 ((公社)発明協会会長、山形県知事、特許庁審査業務部長、東北経済産業局長、山形県議会議長、日本弁理士会副会長、山形県産業労働部長、山形県教育委員会教育長)
 4. 来賓祝辞 (特許庁審査業務部長、東北経済産業局長、山形県知事、(公社)発明協会会長)
 5. 祝電披露 (17の企業・団体)
 6. 記念表彰 (永年勤続表彰：県発明協会役員10名、職員5名、少年少女発明クラブ7名、感謝状：5社)
 7. 受賞者挨拶 (受賞者代表 日新製薬(株) 取締役会長 大石俊樹 様)
 8. 子ども達の創造性開発育成に向けた抱負発表
(県内少年少女発明クラブ代表 さがえ少年少女発明クラブ会長 後藤芳英 様)
 9. 山形県発明協会の決意表明 (県発明協会会長・副会長)
 10. 閉式の辞 (山本丈実副会長)

役立つ人材輩出へ決意

県発明協会 節目の100周年祝う



県発明協会の創立100周年記念式典であいさつする
木村一義会長

＝山形市・山形グランドホテル

県発明協会(会長・木村一義シエルター会長)の創立100周年記念式典が27日、山形市の山形グランドホテルで行われた。節目を祝い、本県の少年少女発明クラブから発明を通して世

界に貢献する人材を輩出することを旨として木村会長らが決意表明した。

同協会は1925(大正14)年、帝国発明協会支部として全国で5番目に発明した。特許制度の普及啓

発明に取り組みのほか、県内10発明クラブの立ち上げや運営を支援している。都道府県別の発明クラブ数で本県は全国3番目に多く、将来の技術者の育成に尽力する。中小企業の特許や商標などの悩みに対応する「知財総合支援窓口」も受託している。

木村会長は式辞で「産業振興の基本は人づくり。世のため、人のために役立つ人材を育てるには、なるべく早く志を立ててもらおうことが大切だ」と語った。トヨタ自動車で初代プリウスの開発責任者だった内山田竹志発明協会会長や、吉村美栄子知事らが祝辞を述べた。

席上、感謝状の贈呈も行った。約110人が出席した。(上村耕平)



記念酒
東北銘醸(株)
純米大吟醸

(山形新聞 2025年5月28日) 写真・記事提供/山形新聞社

県発明協会（会長・木村一義シエルト
1会長）が今年、創立100周年を迎え
た。県発明くふう展を開催するなど、将
来の人材育成も見据え活動してきた。節
目を機に、生活に根差した技術の創出を
さらに進めてほしい。

同協会は1925（大正14）年、帝国
発明協会県支部として設立。2010年
に一般社団法人県発明協会となり、現在
は知的財産制度の普及・相談などに取り
組むほか、県発明くふう展の開催や県内
の少年少女発明クラブの育成・活動支援
も行っている。

少年少女発明クラブは発明協会70周年
記念事業として1974（昭和49）年に
スタートした。当時の協会長でソニー創
業者の故・井深大氏が生みの親とされ、
現在、全国の都道府県に存在する。本県
には10のクラブがあり、山形や鶴岡、東
根、寒河江など、自治体や地域単位で活

社説 県発明協会100周年

動を続けている。クラブ数は都道府県で
は3番目に多く、県協会は今後も拡大を
図り、本県のものづくりを下支えしたい
考えだ。

ただ、設立や運営には苦労も多いよう
だ。2022年に発足した、さがえ少年
少女発明クラブの事務局を担当する鈴木
郁さん（66）によると、資金、指導員、事

節目を機に発信さらに

務局人材の確保が課題という。資金面は
市内企業・団体からの協力が欠かせず、
本年度は約50社から寄付を受ける。指導
員は教員や企業のOBなどが担う。鈴木
さんは4月から、国が雇用に要する経費
を特別交付税で措置する総務省の「地域
プロジェクトマネージャー」として事務
局を担っているが、交付税措置は3年が

上限であり、継続的な事務局体制づくり
が懸案となる。

クラブの意義と活動をもっと発信する
べきだとの声もある。1984（昭和59）
年開設で、県内2番目に歴史が古い鶴岡
は、副会長の富樫芳男さん（73）が中心
に企画運営を行う。富樫さんは日本国末
端技術研究所（鶴岡市）の所長だ。「末

端」は、市内にある慶応大先端生命科学
研究所の逆を意識して名付けた。そして
この末端技術こそが大事だと強調する。
具体的にはのこぎりやかんななど、伝統
工具による五感を使ったものづくりだ。
資源に乏しい技術立国・日本の将来を支
えるには、小さい頃からこつした手作業
の末端技術に触れる経験が必要だとして

いる。

毎年、県内13市を巡回し開催している
県発明くふう展は短期間の開催で、出品
関係者以外の目に触れる機会が少ない。
くふう展は少年少女発明クラブの発表の
場でもある。富樫さんはこうした広報の
在り方も改善の余地があるのではないかと
指摘する。確かに、本紙などマスコミ
の報道以外に、県民の日常生活の中で発
明くふう展がどれだけ浸透しているか、
検証する価値はあるだろう。

県発明協会の木村会長は100周年に
際し、県協会少年少女発明クラブから10
年後、イノベーションで世界に貢献する
人材を輩出すると決意表明した。
時代を開くような発想や技術革新は、
何もないところに突然生まれるわけでは
ない。可能性の裾野を広げる意味でも、
子どもたちが工作したり、発明に携わっ
たりする機会づくりを地域で支えたい。

2025年11月13日

(2) 表彰（永年勤続表彰・感謝状）

一般社団法人 山形県発明協会 役員等々の永年勤続表彰 受賞者一覧

1 役員

・(株)山本製作所	山本 惣一	顧問・会長(支部長)・副会長(副支部長)	31年
・日新製薬(株)	大石 俊樹	理事	23年
・(株)シェルター	木村 一義	会長・副会長・理事	22年
・(株)でん六	鈴木 隆一	副会長	17年
・エムテックスマツムラ(株)	松村 英一	理事	16年
・新庄自動車(株)	佐藤 啓	理事	16年
・(株)鈴木製作所	鈴木 重幸	副会長	14年
・(株)ムラヤマ	渡邊 修	監事	12年
・山形県発明協会	武田 吉弘	理事・参与・事務局長	11年
・アイジー工業(株)	佐藤 浩	理事	10年

2 職員

・知財支援窓口 支援担当者	三宅 茂樹	31年
・山形県発明協会 職員	鈴木 孝	27年
・山形県発明協会 職員	五十嵐 三奈	13年
・知財支援窓口 支援担当者	高橋 正知	13年
・知財支援窓口 支援担当者	浜江 尚子	11年

3 少年少女発明クラブ

・鶴岡少年少女発明クラブ	富樫 芳男	企画運営委員・専任指導員	27年
・三川少年少女発明クラブ	土田 市子	副会長・企画運営副委員長・指導員	27年
・三川少年少女発明クラブ	坂 勇雄	会長・企画運営委員長・専任指導員	26年
・三川少年少女発明クラブ	山川 勇一	会長・企画運営委員長・指導員	22年
・三川少年少女発明クラブ	小林 茂吉	指導員	20年
・天童少年少女発明クラブ	青柳 由起子	企画運営委員・指導員	7年
・山形少年少女発明クラブ	神尾 伴春	企画運営委員・専任指導員	6年

4 感謝状(寄付者)

・(株)シェルター	100万円
・(株)でん六	100万円
・(株)山本製作所	100万円
・(株)鈴木製作所	100万円
・テクノ・モリオカ(株)	100万円



役員受賞者代表
日新製薬(株) 大石俊樹理事と木村会長



職員受賞者代表 三宅茂樹氏と木村会長



寄付者代表 (株)でん六 鈴木隆一社長と木村会長



少年少女発明クラブ受賞者代表
富樫芳男指導員と木村会長

(3) 祝賀会

- 日 時：令和7年5月27日（火） 17：00～18：30
- 場 所：山形グランドホテル 2階「サンリヴァ」
- 参加者：92名
- 次 第

1. 開宴のことば（鈴木重幸副会長）
2. 祝 奏（弦楽四重奏）
3. 乾 杯（山形県議会議長 田澤伸一様）
4. 祝 宴
5. 中 締 め（日本弁理士会副会長 権正英樹様）
6. 閉会のことば（境修副会長）



山形県議会 田澤伸一議長による乾杯



山形交響楽団コンサートマスター 犬伏亜里さんと
スペシャルメンバーによる祝奏



(4) 講演

① 企業講演会

- 日 時：令和7年9月5日(金)
 - ・講演 15:30~17:00
 - ・交流会 17:30~19:30
- 場 所：山形市市民活動支援センター「高度情報会議室」(霞城セントラル23階)
- 内 容
 - ・演題「バックキャスト思考による新価値創造セミナー」
～未来のありたい姿(ライフスタイル)を描き実現する～
 - ・講師 東京都市大学 環境学部教授 古川 柳蔵氏
- 参加者：講演会22名、交流会13名

山形で県発明協100周年記念講演会
課題解決策 逆算し検討
 県発明協会(会長・木村一義シエーター会長)の創立100周年を記念した経営者向け講演会が5日、山形市市民活動支援センターで開かれた。東京都市大の古川柳蔵教授(東京)が「将来の心豊かな暮らしを支える事業のかたちを考える」と題し、未来のあるべき姿を思い浮かべ、ゴールから逆算して障壁となる課題の解決策を検討することが大

古川教授は課題を解決す



る上で、障壁を取り除く考
 え方と、受け入れた制約の
 下で可能な楽しみ方を見い
 だす手法とを紹介した。目
 的の力フエの道中にある
 壁を無理やり取り除かず、
 ボールの壁打ちをするなど
 視点の交え方を例示した。
 「『楽しみたい』が本来
 1 県発明協会創立100周年記
 念の講演を行う古川柳蔵教授
 山形市市民活動支援センタ
 のゴール。目的を自由に交
 えていい」とし、目的にと
 らわれない事業推進の考え
 方を推奨。「新しい価値を
 生み出し、豊かなライフス
 タイルをつくり出そう」と
 呼びかけた。
 オンラインを含め約30人
 が聴講した。一般向け講演
 会は寒河江市市民文化館で
 10月5日に開かれる。
 (上村耕平)

② 一般講演会・対談

○日 時：令和7年10月5日（日） 14：45～15：45

○場 所：寒河江市 市民文化会館

○内 容

- ・ 演題 「デジタル地球儀 『地球を触ってみよう!』」
- ・ 講師 ZEN大学教授・文化人類学者 竹村 眞一 氏
- ・ 対談 講師 竹村眞一氏と 県発明協会木村一義会長

○参加者：約80名



竹村眞一氏による講演



対談する木村一義県発明協会会長（左）と竹村眞一ZEN大学教授
 寒河江市市民文化会館

技術革新 暮らし豊かに

県発明協会（会長・木村一義シエルター会長）の創立100周年記念講演会が5日、寒河江市市民文化会館で開かれた。文化人類学者の竹村眞一ZEN大学教授が地球環境の見通しについて講演。木村会長とも対談し環境、暮らしの双方を改善する技術革新の意義をアピールした。

講演で竹村教授は、自身が開発したデジタル地球儀を使い、地球温暖化の現状と将来予測を紹介。自然にも好影響を及ぼす手法として適度な焼き畑や日本の水田作りを例示し、工夫や発明により自然も、人間の生活も豊かにできると語った。その上で「しっかりと温暖化対策をすれば未来は変えられる」と語った。

寒河江 県発明協 創立100周年記念講演会

対談で木村会長は自社の耐震・耐火性のある木造建築技術を説明。木造都市の構想を描いているとしたことに、竹村教授は「都市が木で造られるようになれば大きな地球貢献につながる」と述べた。

木村会長はまた、目標を設定し、達成のためにやるべきことを紙に書き、実現するまで諦めず努力する必要性を強調。米大リーグで活躍する大谷翔平選手もこの手法を実践してきたとし、協会の取り組みから「発明で世界に貢献する人を輩出したい」と述べた。講演と対談に先立ち、同協会など主催の「第60回県発明くふう展」の表彰式が行われた。

（沢幸蔵）

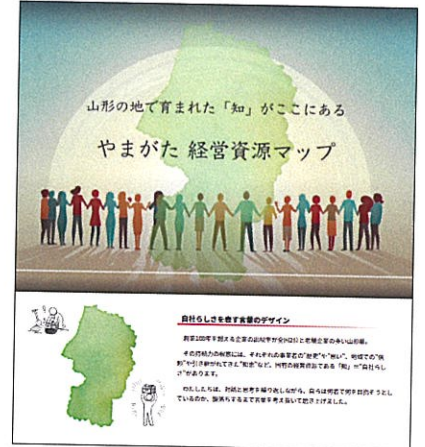
(5) 社会貢献事業

① 自社らしさを言語化するワークセッションの開催

- ・「対話であなたの会社の魅力を掘り起こすワークセッション」を開催（県内4地域）し、自社らしさを明確にし、新たな価値をともに創る仲間を拡大

② “やまがた経営資源マップ(webサイト)”への掲載による情報発信

- ・“自社らしさ”=地域固有の経営資源を集積させ、一人ひとりから生まれた言葉を仲間でも共有するとともに地域内外に発信（現在33事業者が掲載）



③ 価値共創の実践

プロジェクトの庄内地域の取組みとして、地域の皆様と一緒に取り組むことで、誰も費用をかけずに、ワクワクがたくさんつながりもっと楽しく暮らせる地域を目指す「ハッシュタグ『#どさいぐ庄内』サーチキャンペーン」を令和7年7月から開始し、試行的取組みを展開中

④ “やまがた経営資源マップ”の商標登録

- ・令和7年5月18日に商標出願し、令和7年10月20日に登録（登録第6978640号）



⑤ 「グッドデザインアワード2025」への応募

- ・応募カテゴリー：産業向け意識改善・マネジメント・取組み
- ・応募名：やまがた経営資源マップによる「知」の可視化プロジェクト
- ・結果：一次審査は通過するも、二次審査不通過

⑥ “やまがた経営資源マップFes!!”の開催

- ・日時 令和7年12月2日（火）13：30～16：30
- ・場所 山形県高度技術研究開発センター
- ・内容
 - i 実践事例紹介
 - ii 自社らしさの言語化から次のステップ「文化醸成・価値創造」へのワークセッション
(ナビゲーター：(株)IPディレクション 代表取締役・弁理士 土生 哲也氏)

⑦ 未来の豊かな山形を創るプロジェクトへの参加による新たな価値の共創

プロジェクト参加事業者が、互いを知り、互いの特徴（自社らしさ）を活かし合い、未来に向かって自分たちにしかできない新しい価値づくりを進め、“地域内で価値と経済が循環し、地域が豊かになる”仕組みづくりを目指して活動を展開中

「グッドデザインアワード2025」第二次審査用展示パネル

「やまがた経営資源マップ」による「知」の可視化プロジェクト

G2004999

山形の地で育まれた「知」がここにある
やまがた経営資源マップ

境界突破実現創造 あなたの笑顔がひろまるストーリーのつむぎ手 日本の木を使った「暮らしの道具」 気が付けば いつもの んまいい ここにある

面白いのいいデザイナー揃い! 自社工場で製造し、障がい者と共に地域貢献 記憶に残る、山形の旅の伴奏者 想いと縁でつなぐデジタル創造企業

水とアクアリムの補し伝道師 豚の手カラでまると笑顔にする会社 令和のterra-koya 人と街と学びをつなぐ対話の醸し人

Colorful your Life! 山形から授けたいニッポンを贈す オモイを繋ぎ智を紡ぐ、地域に生きるあなたの伴走者

まだ見ぬ誰かと誰かを繋ぐ価値循環の架け橋 人生の節目を創る「想い出感謝式」プロデュース

明るい未来へ ころと光・電気・を絡繰(つな)ぎます スポーツ良縁で笑顔と元気をあなたへ。

山形の企業や地域の魅力をビジュアルで伝える 地域と耳でつなぐ、あなたの街の放送部 健康を集め、健康を広げて、未来を彩る

設備(くらし)を譲る一電気回路の診断エキスパート やわらかい石屋さん 命の繋がりと思いを感じる暮らしを共に創る 「WA」が繋ぐ 美と健康の 起爆剤

未来となる暮らしのうつつをとのえる 「やりたい」をつくる お肉がおしてくれた 人のあたたかさ 和をかさね 縁をいろうとる



デザインのポイント

1. 誘致(外→内)や域外市場(内→外)に依存しない、地元事業者による域内経済好循環(内⇄内)の基盤づくり
私たちは、地域の歴史や風土に育まれた地元事業者による域内経済の好循環(内⇄内)こそが、地域に生きる「豊かさ」の鍵と考えて取り組んでいます。
2. 山形の事業者にも固有の「知」を経営資源と捉え、自社らしさを表す言葉としてウェブマップに可視化する
老舗企業の出現率が京都府に次いで全国2位の山形県には、長年にわたる事業活動で蓄えられた、暗黙知を含む固有の「知」が存在します。こうした「知」を「資源」に見立て、観光資源のマップのように、経営資源をウェブマップに可視化しました。
3. 情報発信の手段が設けられるとともに、歴史や思いの語り合いから相互理解や価値共創の機運が生じている
対話によって自社を深掘りする取組みは、同じ地域の事業者にも潜在的な集約の無意識を呼び起こして、相互理解や価値共創の機運が生じています。「やまがた経営資源マップ」をバウンダリーオブジェクトとして、個社単位ではなく、面的に広がる新しい地域経済活性化の形を示していきます。

「やまがた経営資源マップ Fes!!」開催状況



一般社団法人山形県発明協会 決意表明

『発明・イノベーション』において、世界をリードする人財を輩出できれば、その経済的・社会的効果はスポーツの比ではありません。

「日本に勇気と希望」を与え、未来に明るいビジョンを持ってもらうために、スポーツではなく、『発明・イノベーション』で世界に貢献する人財を輩出することを宣言しました。

物事は全て、そう思うことから始まります。この強い思いを実現するために、関係者が本気になって真面目に、誠実に、一步一步着実に歩みを進める決意です。



記念式典における会長・副会長による決意表明

決意表明文

決 意 表 明

10年後、山形県発明協会少年少女発明クラブから、スポーツではなく、発明・イノベーションで世界に貢献する人財を輩出する。

野望と志は違う！

野望は私欲、私心からおこり、志は世のため、人のためという崇高な心からおこる。

良いモノをつくるには、我づくり、人づくり、そして、モノづくり。

良い人がモノをつくれれば、必ず良いものが出来る。

真面目に誠実にモノづくりに取り組む。

日本はこのまま終わってはならない。

もう一度、日本人が失った誇りと自信を取り戻し、未来に勇気と希望を持って生きられるようにしたい。

そのために、今こそ発明・イノベーションで世界に貢献する人財を育てる。それが山形県発明協会の志であり、決意である。

産業を振興し、幸福・有徳の国をつくろう！！

令和7年5月27日

一般社団法人山形県発明協会

実行

1

「子ども達の潜在力・可能性を引き出す」

～少年少女発明クラブの創設促進と活動充実～

子ども達には、とてつもない可能性があり、潜在能力があります。

今後、世界に伍して競っていくには、創造力、革新力、人間力が不可欠です。

まずは、志を立て、自分を信じ、成功するまであきらめず、辛抱強く努力してほしい。そうすれば、必ず成功します。

「人づくり」には、良き環境をつくり、動機付けを与え、励まし、褒めることが大切です。

少年少女発明クラブでの経験は、子どもの頃の早い時機に志を立てて自分を磨いていく貴重な機会となります。子ども達の潜在能力・可能性を最大限に伸ばすことができるよう、我々大人が本気になり、その創設促進と活動充実を目指します。

発明クラブってどんなところ？



小学生や中学生が

学校では学べないことや家庭では経験できないこと

いろいろな道具の使い方 簡単な工作や実験、自分で考えたアイデアを形にする

をたくさん体験できる場所

山形県は
クラブ数
全国第3位！

発明クラブ数の全国		
1	愛知県	27
2	青森県	11
3	山形県	10
3	和歌山県	10
5	大分県	9
6	岩手県	7
6	千葉県	7
6	山口県	7

2025年3月現在

◇学校教育とは一味違う活動で、創造力豊かな子供たちを育みます。

- ・自分の意思で集まった子どもたちのための課外活動の場です
- ・学校の先生、地域企業の技術者、退職した教員など、ボランティアの指導員によって支えられています

発足

少年少女発明クラブは、当時の発明協会会長であるソニー創業者「井深 大」氏が提唱し、公益社団法人発明協会の70周年記念事業として1974年にスタートし全国に展開しました。現在、全国47都道府県に211ヶ所、約9000名の子どもたちと、約2500人の指導員が活躍しており、東北全体で38ヶ所、山形県では10ヶ所で活動しています。

少年少女発明クラブの1年間(サンプル)	
(年間スケジュール、活動内容は各クラブにより異なります)	
5月	開講式・オリエンテーション
6月	クラブコンテスト作品づくり
7月	クラブコンテスト参加
8月～9月	発明くふう展作品づくり 未来の科学の夢絵画展作品づくり
10月～2月	各種工作づくり・各種実験・企業見学・体験 等 (ロボット・電子回路・LEDライト、モーター、空飛ぶおもちゃ、ドローン、プログラミング 等)
3月	閉講式

ご支援・ご協力を

現在、山形県と山形県発明協会は、既存の「少年少女発明クラブ」を応援するとともに、発明クラブのない市町での新設に向けた活動を展開しています。是非、ご支援・ご協力をお願いします。

〈どこにあるの?〉



●三川少年少女発明クラブ

活動拠点：おもしろ教室（クラブハウス）
☎0235-64-8310（三川町教育委員会）

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
16人	5人	月1～2回土曜日、年17回
主な活動	アイデア作品づくり、楽しい☆科学実験、 絵画制作、ロボット制作、体験学習ほか	



●山形少年少女発明クラブ

活動拠点：山形市郷土資料収蔵所
☎023-623-7283（浦安宅）

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
24人	9人	月2回土曜日、年21日
主な活動	発明くふう講座、たのしい工作教室、おもしろ科学教室など	

○発明くふう講座「電磁石を使ったおもちゃ」 ○たのしい工作教室「コキアロボットの製作」



●鶴岡少年少女発明クラブ

活動拠点：日本国末端技術研究所
☎0235-57-4865（鶴岡市教育委員会）

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
20人	5人	月2回土曜日、年26日
主な活動	自動車解体体験、電子回路作成、電子工作、 科学実験など	



●東根少年少女発明クラブ

活動拠点：東根市職業訓練センター
☎0237-43-1180（東根市教育委員会）

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
15人	4人	月2回土曜日、年25日
主な活動	ペットボトルロケット、3色LED紙コップ 発光機、電子工作、企業訪問など	



●米沢少年少女発明クラブ

活動拠点：山形大学工学部 学生会館
☎0238-22-7866（米沢工業会）

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
25人	13人	月2回土曜日、年20日
主な活動	プログラミング、電気づくり、自動車づくり、 電気電子回路、熱実験、地球環境など	



●最上少年少女発明クラブ

活動拠点：最上広域市町村圏事務組合教育研究センター
☎0233-32-1888 (同センター)

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
25人	9人	月2回土曜日、年12日
主な活動	ペットボトルロケット、電気回路、企業見学、電子工作キットなど	



●天童少年少女発明クラブ

活動拠点：天童市勤労青少年ホーム (つど〜む天童)
☎023-654-3511 (天童商工会議所)

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
25人	8人	月1回土曜日、年10日
主な活動	3Dモデリング体験、折り紙ヒコーキ大会、AMラジオ製作などの創作教室など	



●さがえ少年少女発明クラブ

活動拠点：寒河江市旧幸生小学校校舎
☎0237-85-1556 (寒河江市教育委員会)

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
40人	20人	月2回土曜日、年20日
主な活動	電機・木工工作、ドローン体験、3Dプリンタ、プログラミング、ロボット製作、など	



●尾花沢・大石田少年少女発明クラブ

活動拠点：玉野地区公民館
☎0237-22-1125 (尾花沢市商工観光課)

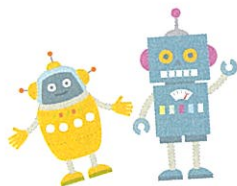
クラブ定員	指導員数	活動日・日数
30人	20人	月1回土曜日、年10日
主な活動	プログラミング、科学実験、ドローン体験、モノづくり教室、LEDランプ作成など	



●かむろもがみ少年少女発明クラブ

活動拠点：旧最上町立瀬見小学校
☎090-5590-6268 (事務局 佐藤)

クラブ定員	指導員数	活動日・日数
15人	7人	月2回土曜日、年10日
主な活動	LED回路作成、アームクローラー作成、発電機作成など	



▼クラブコンテスト



年に一度、県内全クラブが一堂に会し、日ごろの成果を発表し合うクラブコンテストがあります。競技に参加する選手たちは真剣そのもの。毎年熱戦が繰り広げられています。(この競技は、「ゴム動力カー」の一場面です。)

少年少女発明クラブ活動により見込まれる効果

発明クラブの活動は、次のとおり「複合的な学びの場」として、工作等の基礎的な技術や、創造性はもとより、子どもの様々な能力開拓に結びつくほか、「地域の次代を担う人づくり」、「地域の若者定着・回帰」など地域活性化に結びつくというのが、全国の指導者の共通認識です。

① 早期の学びと経験

小中学生のうちに製造業やものづくりの世界に触れることで、興味関心を深め、スポーツだけではなく、将来の選択肢を広め、発明・イノベーションで世のため、人のために役立つ人材となる志を立てることに役立ちます。

② 教科を超えた学び

理科や科学の知識だけではなく、コミュニケーション能力、問題解決能力、発想力、創造性など、教科書に載っていない学びを得ることができます。

③ 自己肯定感の向上

失敗を繰り返しつつも、あきらめず努力すれば必ず成功するという成功体験を積み重ねることで、自己肯定感が高まり、一層の学習意欲や探求心を育みます。

④ 社会性と協調性の育成

グループ活動を通して、他者とのコミュニケーション能力や協調性等を身に付けることができます。

⑤ 地域への愛着

地域の大人とのつながりや地元企業を知ることを通して地域への愛着を深めることができます。

少年少女発明クラブの創設を目指す

「まだ、県内の約半数の市町村には発明クラブがありません！」

発明クラブの活動は、

- ① 地域の人づくり（将来の地域や産業を担う人材の育成）
- ② 地域の若者の地元定着・回帰の促進（地元企業の素晴らしさの再認識）

など、地域の活性化に大いに貢献できます。

このように発明クラブが地域に根差して活動していることを丁寧に説明し、**県内のどの地域に生まれても子ども達が参加できるように**、各地域の行政機関や企業等の理解と協力を得ながら、創設を進めてまいります。

発明クラブの活動充実を目指す

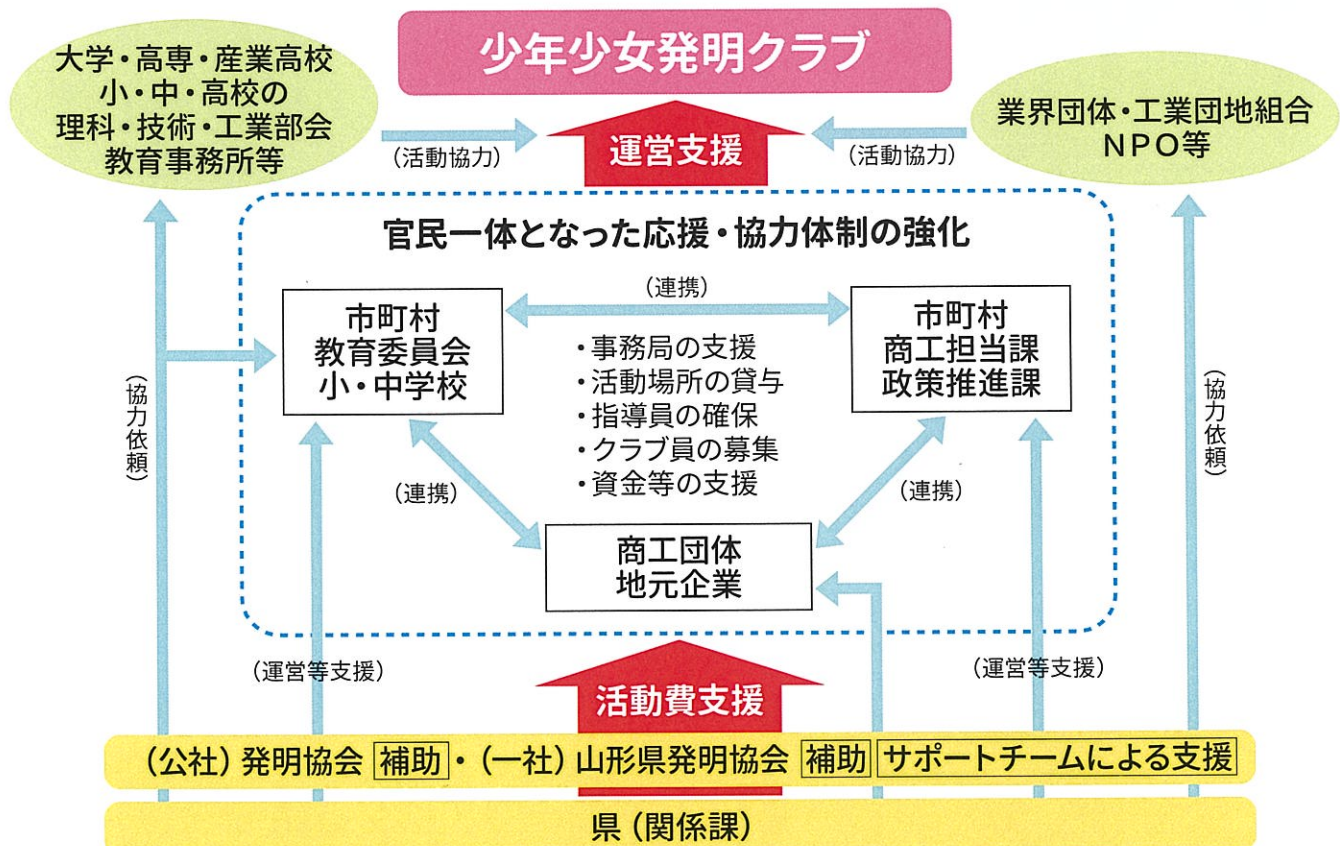
1 現状・課題

青少年発明クラブの活動は、地域における人づくり、若者の地元定着・回帰、地元企業の周知など、各地域の活性化に貢献できるものであることから、各地域の行政機関、教育機関、商工団体、企業等が一体となって活動を支えることが理想ですが、支援・協力体制が十分でない地域があります。

2 対応方針

空白地域での発明クラブ創設促進及び各地域での応援協力体制の構築を推進するため、(一社)山形県発明協会内に「青少年発明クラブ創設・活動充実サポートチーム」を新たに設置して、集中的に支援を進めます。

各地区での応援・協力体制イメージ



※商工団体：各種部会等への協力依頼、市町村への働きかけ等
企業等：技術者（OB/OG含む）による指導、工場見学の受入れ、施設や道具の貸与、資金や材料の援助等

実行
②

「動機付け、励まし、褒める」

～発明くふう展、未来の科学の夢絵画展の開催と表彰～

日頃の発明クラブ活動において、子ども達の潜在力、可能性を引き出すとともに、創作への動機づけとして発明くふう展や絵画展を開催し、また、表彰式において励まし、褒めていきます。



第60回 山形県発明くふう展 作品大募集

2025年 第33回全日本学生児童発明くふう展入選作品

応募締切 令和7年9月10日(水) あなたのアイデアを募集!

特別賞・優秀賞・優良賞、約50点を表彰! その内20点を全国展に応募

応募対象 (1)県内の小学校、中学校及び特別支援学校の児童生徒 (小学生未満の児童は特別賞の対象外) (2)県内の高等学校、中等教育学校、専修学校の生徒 (3)大学・短大の学生、県内に居住する一般の方及び発明発想の発明者・発明者

応募作品 ・日常生活を豊かにするもの ・自然現象を利用するもの ・大きさ、高さ1m以内 ・重量2kg以内

賞品 令和7年 10/4日 5日 令和7年 10月5日

山形県発明くふう展100周年記念展



☆ユニークな作品
☆アイデアが詰まった
楽しい作品など
創作にチャレンジ!
(R7:241点の応募)

第60回山形県発明くふう展入賞作品

第22回 山形県 未来の科学の夢絵画展 作品大募集

応募締切 令和7年10月27日(月) [必着]

自由な発想で絵に表現してみよう!

特別賞 特別賞受賞作品

絵画展の御案内

開催期日 令和7年12月3日(水)～12月9日(火)
午前10時～午後5時 (12月3日は午後1時から)

開催場所 山形県産業科学館 2階フリースペース
山形市城南1丁目1-1 蔵城セントラル内

主催・協賛 一般社団法人山形県発明協会
〒990-2473 山形市松葉二丁目2番1号 山形県高度技術研究開発センター内
電話 023-644-3316 FAX 023-644-3303



☆身近な生活や社会
を自分のこととして
とらえ、人々の幸せ
につながる未来への
夢や希望を表現!
(R7:300点の応募)

第22回山形県未来の科学の夢絵画展入賞作品

富樫さん(山形大付属中1年)4度目最高賞

県発明くふう展で、山形大付属中1年の富樫あかりさん(13)は山形少年少女発明クラブ所属が自身4度目となる最高賞の県知事賞に輝いた。小学2年時から同展に出品しており、作品は社会のために役立ちたいとの思いから生まれている。今回はサクランボの盗難事件に心を痛め、低予算で作製可能な被害防止装置を考えた。「諦めないことを教えてくれた先生たちのおかげ」と喜びを語る。

県発明くふう展

低予算サクランボ盗難防止装置

装置は、サクランボ盗難 効だが、畑全体を確実にカバーするには費用がかさむが、フルーツ150周年 と分析。安価なレーザー部品をうまくつなげにアイデアを膨らませた。盗難防止にはカメラのほか、約10分の範囲で対象物の熱を感じず、サーは100が先まで届る赤外線センサーなどが有



県発明くふう展で4度目の最高賞を受けた富樫あかりさん。今回はサクランボ盗難防止装置(模型)を考えた

山形市・山形大付属中

社会のため 問題意識高く

感知する。畑の四隅に上下2個ずつ設置することで、落ち葉や鳥などが誤作動しないよう工夫した。無色のレーザーもあり、気付かれにくくできる。模型では1個1200円の部品を使っ

同展は、県や県発明協会(木村一義会長)などが毎年開催。富樫さんの作品について、同協会は「古里への強い思いを感じる。高い問題意識を持って生活していることや、科学的視点などが評価された」と評した。富樫さんは兄の影響で、小学2年時に同クラブに通い始めた。山形市郷土資料収蔵所(同市青田南)で月2回ほど教諭O.B.らにアドバースをもらいながら、ものづくりを楽しんでいる。高齢者の交通事故や、新型コロナウイルス禍でのオンライン活用といった社会的

事象に対し、「私にできることはないか」と日々考えるを巡らせ、2021年の小学3年時から3年連続で同展最高賞を受けた。昨年は次点で、「何が足りなかったんだろう」と悩んだ時期があっただけに、今回の最高賞受賞の喜びはひとしお。「これからも奉仕の心を大切に、世の中のため、人のために役立ちたい」と意気込んでいる。

富樫さんの作品を含む同展上位作品は、「全日本学生児童発明くふう展」に出品される。(柴崎愛)

〈山形新聞 2025年10月26日〉 写真・記事提供/山形新聞社

未来の科学の夢絵画展 大山さん(山形八小)最高賞

発明協会(東京)主催の「未来の科学の夢絵画展」小学校・中学校の部で、山形八小2年大山義人さん(8)は写真=の作品「地しんエネルギーをすいとるちゅうしゃ」が、最高賞となる特別賞の一つ「特許庁長官賞」に選ばれた。地震エネルギーを電力に変換し、電力不足のまちを明るく照らすアイデアを描いた。



地震の力 電気に変える

「電力不足のまち助けたい」

震やロシアのウクライナ侵攻に関するニュースを見て、「電力不足のまちの人たちを助けたい」との気持ちから思いついた。絵の具とクレヨンを使い、地震のエネルギーは赤色で濃く、電気がついたまちや灯台の光は黄色ではっきりと表現した。特別賞に選ばれた絵を描くのがもっと好きになったと語り、将来の夢は科学者で、「このシステムを実現できたらいいな」と話した。他の入賞者は次の通り。(洋数字は学年)

- ◇小学校・中学校の部 ▽優秀賞Ⅱ荒井咲耶(山形大付属小5) ▽奨励賞Ⅱ同
- ◎前田香陽(横山小5) ▽奨励賞Ⅱ同
- ◎岡(山形八小3) 江幸生(山形八小3)
- ◎土屋佳蔵(朝陽小4) 長谷川重貴(藤島小5) 金山純輝(山形東小5) 柏倉佳伸(山形大付属小6) 本間結心(泉致道館中)
- ◇幼稚園・保育園の部 ▽優秀賞Ⅱ清野莉子(子供の城保育園) ▽奨励賞Ⅱ土屋颯斗(同)

(柴崎愛)

〈山形新聞 2025年3月20日〉 写真・記事提供/山形新聞社

子ども達の創造性開発育成に向けた抱負



山形少年少女発明クラブ 草刈 竹司 会長 (元山形市立第九中 校長)

本クラブは山形県内で一番早くできた少年少女発明クラブとして、また山形県都にあるクラブとしての自負を持って県内の発明クラブをリードし、創造性の開発と育成を目指し、山形県・日本を担う子ども達を育てたいと思います。



鶴岡少年少女発明クラブ 秋場 淳 会長 (鶴岡市立斎小 校長)

鶴岡少年少女発明クラブでは、保護者同伴で活動することで作業や連絡がスムーズに行われています。また、学校ではできない活動を通して難しいこともひとつずつ解決していくプロセスを楽しみながらしっかりと身につけ、たくましい青年に育ててほしいと思い指導を行っております。



東根少年少女発明クラブ 間木野 教子 会長 (東根市教育委員会 教育次長)

これまで活動を支えてくださった指導員の先生をはじめ、保護者の皆さまのご協力に感謝いたします。これからも、こどもたちの自由な発想を大切に、ものづくりの楽しさや挑戦する気持ちを育める活動を目指してまいります。会員どうしの友好の輪が広がり、笑顔あふれる発明クラブとなるよう努めてまいります。



三川少年少女発明クラブ 土田 市子 会長 (三川町議会 議員)

子ども達が豊かな創造力を身につけていくためには、指導員である地域の大人とかかわり、ものづくりを通して「考え方」や「解決までの過程」を学ぶ経験が大切だと考えます。『挑戦してみよう!』という気持ちが『生きる力』に繋がることを期待しております。



米沢少年少女発明クラブ 木俣 光正 会長 (山形大学工学部 教授)

米沢少年少女発明クラブは、子供たちに科学的な夢をもって生きて欲しいと思って活動しています。出来れば未来の科学者、研究者、そして発明家になって日本、いや世界で活躍して欲しいものだ。そのきっかけが「発明クラブにあった」と言ってもらいたいと思って活動しています。



最上少年少女発明クラブ 高橋 研 会長 (最上教育研究センター 所長)

当クラブは、科学工作や発明作品の製作を通して、子ども達の創造力や工作技術の向上を目指し、もの作りや発明することの楽しさや難しさを体感できる場として発足しました。今後も、地域を支え世界に羽ばたけるような、夢を持った人材育成を目指します。



天童少年少女発明クラブ 山口 與左衛門 会長 (天童商工会議所 工業部会長)

昨年度は紙ヒコーキやラジオ製作、発明工夫展への挑戦を通じ、創造力を磨きました。手を動かし試行錯誤した経験は、皆さんの大きな財産です。今年も「なぜ？」という好奇心を大切に、自由な発想で新しいアイデアを形にして進めていきたいと思っております。今年度は地元企業とコラボして新しい発見をしましょう！



さがえ少年少女発明クラブ 後藤 芳英 会長 (後藤電子㈱ 代表取締役社長)

さがえ少年少女発明クラブは日頃の活動の中で語り合い、友を作り、自分や誰かが困れば人の優しさを養いつつ、様々なものを手で触り作る事でそれが理屈で解らない事の発見に繋がり、子供たちの個性を育み、より良き素晴らしい新たな未来を語り沢山の夢を見られる活動になればと願っています。



尾花沢・大石田少年少女発明クラブ 本間 忠雄 会長 (オブテックス工業㈱ 代表取締役会長)

令和5年度設立の尾花沢・大石田少年少女発明クラブは、市内企業等と連携し、プログラミングやモノづくり体験を提供しています。今後も地域一体で、未来を担う子どもたちの豊かな創造力と探求心を育ててまいります。



かむろもがみ少年少女発明クラブ 中嶋 晴幸 会長 (元最上町教育長)

設立2年目の私たちのクラブでは、科学やものづくりに興味を持ちながらも活動の機会に恵まれなかった子どもたちに、創作活動を通して工夫することの楽しさや喜びを体得させることで、豊かな創造性を育むことを目指しています。

(以上、令和7年度の会長よりいただきました)

4

山形の発明王

引用：酒田市立資料館（現酒田市文化資料館光丘文庫）第197回企画展「庄内の発明家」（平成28年）

【力織機・飛行機を独学で考案】



さいとう といち
齋藤 外市氏 慶応元年(1865)～大正15年(1926)

齋藤外市は、長沼村（旧藤島町）の裕福な農家に生まれた。おおらかに育ち、学校の成績も良かったが、他人からものを教わるのを嫌い、小学校を4学年でやめて農業に従事。そのかわり、読書や機械いじりに没頭した。

「日本を世界に負けない、豊かな国にする」と決心した外市は、明治22年（1889）に、軽気球と潜航艇を発明し、それぞれ陸軍と海軍に献納した。その後も改造魚雷艇、飛行機、水雷などの軍器を考案した。

また、産業振興策として、輸出向け羽二重の生産に着目。動力式の「力織機」の開発に取り組み、明治33年（1900）、「齋外式力織機」として特許を取得する。この力織機は全国に広まり、大正9年（1920）には生産台数1万台に達した。

さらに「齋外縞子（しゅす）」と名付けた輸出向けの縞子などの製織にも成功し、鶴岡を輸出絹織物産地として知らしめた。両羽実業新聞、鶴岡瓦斯（現在の鶴岡ガス）の設立に関与し、鶴岡町会議員としても地域の発展に貢献した。

同じく力織機を開発し、トヨタグループ創始者となった豊田佐吉とともに「綿の豊田、絹の齋藤」とうたわれ、明治45年（1912）には、ともに藍綬褒章を受けている。

【人絹（レーヨン）の製造技術を確立】



くむら せいだ
久村 清太氏 明治13年(1880)～昭和26年(1951)

久村清太は、酒田市今町の表具師・久村清斎の長男として生まれた。少年時代はまれに見る美少年だったという。荘内中学校（現在の鶴岡南高校）、第二高等学校（現在の東北大学）を経て、東京帝国大学理科大学（現在の東京大学）に進学する。

しかし学校には行かず、太陽レザー製造所でのレザー研究に没頭。在学中に「艶消しレザー」の特許を取得し、東京レザーの設立に参画する。ついには大学を中退し、東京レザーを吸収合併した東レザーの技師長に就任。人絹（レーヨン）製造の研究に打ち込む。

当時の新興総合商社である鈴木商店の番頭・金子直吉に資金援助を受け、大学の同窓で米沢高等工業学校（現在の山形大学）の講師だった秦逸三とともに研究を続け、大正5年（1916）にレーヨンの製造に成功する。

大正7年（1918）に帝人造絹糸(株)（現在の帝人(株)）を設立すると取締役役に就任し、後に社長になる。その間、3度にわたり欧米研究に赴き、先進技術の導入に努めた。昭和3年（1928）には藍綬褒章を受章している。

戦後は、帝人会長、日本化学繊維協会会長を務め「日本化学繊維工業の父」と呼ばれた。

【歴史を変えた腕時計を開発】



なかむら つねや
中村 恒也氏 大正12年(1923)～平成30年(2018)

中村恒也さんは、酒田市中町に生まれた。酒田中学校（現在の酒田東高等学校）、日本大学理工学部機械工学科を経て、昭和19年（1944）に(株)第二精工舎・亀戸工場（現セイコーインスツル(株)）に入社。

終戦後の昭和20年（1945）に同社諏訪工場（セイコーエプソン(株)の前身）に転籍する。当時、日本の腕時計は先進国スイスの製品をコピーして製造されていたが、昭和31年（1956）、中村さんは機械式腕時計「マーベル」を独自に設計し商品化。高精度の純国産腕時計として評判となり、人気を博す。同34年（1959）には画期的な自動巻腕時計「ジャイロマーベル」を開発する。

その後、クォーツ（水晶発振）時計の開発リーダーとなり、昭和44年（1969）、世界初のクォーツ腕時計の商品化に成功し、腕時計の歴史を変えた。中村さんの技術者としての歴史は、戦後の腕時計の歴史といっても過言ではない。中村さんの考え方に「技術は人びとのために」があり、クォーツ時計の特許技術を公開し、広く使ってもらうことでクォーツの普及に貢献した。

セイコーエプソン社長に就任してからは、製造工程からのフロン全廃に取り組み、平成4年（1992）までに実現。その技術を公開し、環境保護に貢献した。その功績により、平成5年（1993）には米国環境保護庁「オゾン層保護賞・個人賞」を受賞している。

科学技術功労者表彰、藍綬褒章、勲三等旭日中級章などを受けている。東北エプソン(株)の酒田誘致に尽力し、平成15年（2003）には酒田市名誉市民となった。

